

プロジェクト科目 議事録

2006年 11月 25日提出

プロジェクト科目 テーマ名 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究	
記録者氏名	D 学生 ID -
日時	2006年 11月 24日(金) 15:00 ~ 17:00
場所	寧静館501
議題 観世流能楽師 a を交えて、具体的な企画について話し合う。	
参加者 A、B、C、D、E、G ゲスト：観世流能楽師 a	
記録 ▼15:00~ ・ A から 21日(火)と23日(水)に決まった内容について説明があった。 21日(火)：金剛流能楽師 a を交えて企画の具体化。 →金剛流は演目を『殺生石』に決定。 23日(水)：当日の具体的なタイムスケジュールを決定	
<p>1/10 (水) 第2回 WS 13:25~14:50</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会式 13:25~13:30 (5分) 2. 仕舞鑑賞 13:30~13:40 (10分) 3. 観察 13:40~13:50 (10分) 体験 13:50~14:15 (体験 15分、報告 10分) 休憩 14:15~14:25 (10分) 4. 座談会 14:25~14:45 (20分) <p>※4 ページ目<タイムスケジュールについて>に改訂版を掲載</p>	
<p>・ D) 児童の質問は、「座談会」と「観察」でどう区別しているのか。</p> <p>A) 「座談会」での質問は、事前学習用プリントを配布し、あらかじめ能楽師に聞いてみたいことを幅広く、考えてきてもらう。プリントは年内に配布したい。 「観察」での質問は、能楽師の演技や動きなど仕舞に関する質問、次の「体験」につながるような質問のみを受け付ける。</p> <p>・ D) 休憩時間はもう少し短くてもよいのではないか。</p> <p>A) 予定通りに進まなかった場合、「休憩」と「座談会」で時間を調節するので、臨機応変に対応できるよう長めにとってある。</p>	

▼15:20～ ゲストである観世流能楽師 a が入室

・ A が企画を説明する

※ 以下時系列ではなく、項目毎に整理

<演目について>

21日(火)に金剛流能楽師 a にいくつか演目を提案したところ、すべて却下され、代わりに『殺生石』に決まったのでその様子を観世流能楽師 a に説明した。

◎『殺生石』: 伝説であることからあらすじが説明しやすい。

謡のテンポもよく、能特有の動きがある。

※メンバーが提案した演目はなぜ却下か

・『巴』の馬に乗るシーン: 動きが少ない。舞ではない。

・『藤戸』: ストーリーが説明しにくい。

・『春日龍神』: 抽象的で、説明しにくい。

・『石橋』: 仕舞がない。

これを受けて、

観世流能楽師 a) 観世流は、『敦盛』はどうか。

→金剛流能楽師 a 提案の『殺生石』¹、『敦盛』は両方とも扇が必要だが、前回の扇は壊れている可能性がある。また、100円均一の扇では、開いたときに扇の骨の間が開いていないため舞には使いにくい。

→扇を閉じたままで舞える演目にすべきか。

※1 観世流能楽師 a の「観世流では、『殺生石』の矢のシーンでは扇は広げないが、金剛流はどうかかわからない」という発言を受けて、金剛流では扇を広げるのかどうか、確認すべきだということが分かった。

観世流能楽師 a) 金剛流能楽師 a は『殺生石』でどれくらいの長さの動きを教えるつもりなのか。

E) 「矢を射て、自分の胸に矢が刺さって、パタリと倒れるまで」とおっしゃっていた。

これを受けて、

観世流能楽師 a) 同じような動きのある、『鶴(ぬえ)』²はどうか。仕舞では、水の流れを表現するから児童がおもしろがるのでは。

G) 『鶴』では扇を使うのか。

観世流能楽師 a) 使うが、扇を広げないシーンを選ぶ。

A) 児童がストーリーを把握した上でWSに参加できるように、事前学習用プリントを作成する予定なので、プリント作成時にあらすじの文書を監修していただきたい。

これを受けて、

観世流能楽師 a) 『鶴』は内容が奇怪なため、説明が難しいかもしれない。扇を閉じたまま舞えるもので考えたが…。では、『鉄輪 (かなわ)』³はどうか。

ここで、演目については一端保留。

観世流能楽師 a) 型は何かを表現しているものがあるのか。

G) 能特有の魅力を伝えるのが今回のWSの目的なので、象徴表現を取り上げていただきたい。

観世流能楽師 a) つまり、弓から矢になど、扇の象徴するものが変化したりするものがあるのか、それとも扇は扇として使ってもいいのか。

G) 扇などの道具を使った象徴表現だけではなく、道具を使わない象徴表現も伝えたいので、それはどちらでも構わない。

観世流能楽師 a) 了解した。それなら演目は『放下僧 (ほうかそう)』⁴ではどうか。その当時の流行歌みたいなものだから、謡のリズムが面白い。扇は筆の代わりや、茶臼の形に変化する。テンポはゆっくりの方が児童にとっては、真似しやすいので良いだろう。…しかし、もう少し考えさせてほしい。考えついたら、連絡する。

以上、観世流の演目については観世流能楽師 a の連絡待ち。

※2 『鶴』ぬえ

旅の僧は芦屋の里で何者とも知れぬ陰鬱な相貌の舟人に会う。僧との問答の末男はついに自分が鶴の亡霊であると明かし、帝を苦しめた罪により源頼政に退治されたときの有様を仕方話で物語る。詩情味豊かな鬼能。(鶴とは顔は猿、手足は虎、尾は蛇という化け物)

※3 『鉄輪』かなわ

夫に捨てられた女が貴船明神に丑の刻詣をし、生霊となって恨みを果たせるという神託を受け、鉄輪を頭にいただき夫のもとへ向かう。一方、夢見の悪い夫は陰陽師に祈禱を頼む。嫉妬、呪詛、復讐、凄まじい女の情念が描かれる。

※4 『放下僧』ほうかそう

父の仇を討つため小次郎は僧籍の兄を説得し大道芸人の放下僧になりすまして、敵の利根信俊に近づく。曲舞・羯鼓・小歌などの様々の芸を演じて見せ、隙をうかがって仇を討つ。こきりこなど田楽芸の面白さ。

※2, 3, 4 出典) (社)能楽協会 曲目データベース <http://www.nohgaku.or.jp/encyclopedia/program/>

<タイムスケジュールについて>

観世流能楽師 a) 時間配分が少し短いのではないかと。「体験」か「観察」のどちらかを長くしてほしい。

A) 長くとは、どのくらいか。例えば「体験」を15分にすれば大丈夫か。

観世流能楽師 a) 15人を相手にするのだから、15分あっても一人あたり1分の計算になる。

この間に、児童たちに「体験」でどの程度までできるようになって欲しいのかという完成度の話を受けて、

(後のトピック<完成度・具体的な内容>参照)

観世流能楽師 a) (タイムスケジュールを見ながら、)プログラム3. の「観察」・「体験」の後に休憩を入れたらどうか。「観察」、「体験」、休憩までは観世・金剛と時間配分は臨機応変にして、プチ発表会であるプログラム4. 「報告」から両グループ足並みを揃える。プログラム5. 「座談会」は伸び縮みできる時間にするのはどうか。

A) 確かに、休憩を「報告」の前に入れたほうが、区切りをつけやすい。「座談会」は当初から調節の時間として想定していたので、そのつもりだ。

以下、【改訂版タイムスケジュール】

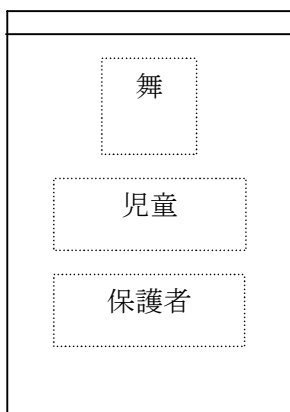
1/10 (水) 秋のWS 13:25~14:50 (職員会議のため延長不可)	
1. 開会式	13:25~13:30 (5分)
2. 仕舞鑑賞	13:30~13:40 (10分)
3. 観察	13:40~13:50 (10分)
体験	13:50~14:05 (15分)
休憩	14:05~14:15 (10分)
報告	14:15~14:25 (10分)
4. 座談会	14:25~14:45 (20分)

ここで両グループ足並みを揃える

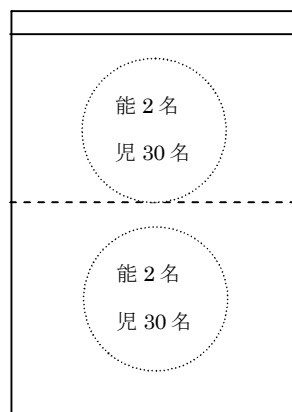
同上

【形態】

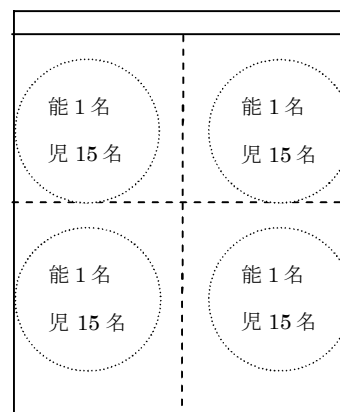
2. 仕舞鑑賞



3. 観察



4. 体験・報告



<具体的な内容・完成度について>

A) 「観察」の際には、児童が能楽師の後ろに回ってもよいか。

観世流能楽師 a) 構わない。

A) その際、児童が能楽師に近づいていいのはどこまでか。

観世流能楽師 a) 手があたらない程度の距離。

D) 「仕舞鑑賞」の際、四本柱は要らないか。また、その際にもどの程度まで児童を近づけてもよいか。境界線は要らないか。

観世流能楽師 a) 四本柱、境界線は要らない。同じく児童に手があたらない程度の距離。与えられた範囲で舞うつもりだ。

E) 金剛流能楽師 a は三間四方あればよいとおっしゃった。つまり $1.8\text{m} \times 3 = 5.4\text{m}$ 四方あればよいか。

観世流能楽師 a) そうだ。

A) 「体験」の際、児童が体験したい動きをリクエストしてもよいか。

観世流能楽師 a) 構わない。ところで、「体験」でどこまで完成させたいのか。

A) 一連の動きを完成させたい。例えば、金剛流能楽師 a が言われている「射て、やられて、パタリと倒れるまで」など。

A) 曲が決まったら、そのビデオを貸して頂きたい。

観世流能楽師 a) 了解した。

T) そのビデオは切り出ししてDVDに移しても良いか。

観世流能楽師 a) 大丈夫だ。

観世流能楽師 a) ところで、児童は靴下か。

A) その予定だ。

A) 「観察」の際、地謡1名、舞1名で良いか。

観世流能楽師 a) 大丈夫だ。

<その他、観世流能楽師 a から>

- ・ 「体験」の際児童にどのレベルまで教えたらいいのか、ということを含め、全体的な目標をきっちりと能楽師側に提示せよ。

- ・ あまり時間に縛られたくない。前回もう少し時間が欲しいと思った。きっちりと時間を区切るのは、児童によって覚えるペースが違うため、難しいのではないか。

→ここで時間配分についてご提案いただく。(既出の改訂版タイムスケジュール参照)

・それぞれのグループの児童の名簿を渡して欲しい。前は違うグループの子も呼んでしまったので、混乱した。

→A) 今回の目標である児童と能楽師の双方向的コミュニケーションを実現するために、できれば能楽師には7月と同じ児童を担当してほしいと思っている。ただ、そうするとクラス混合になってしまうため、小学校から反対されるのではないかと懸念している。30日の小学校との企画会議で、前回のグループ分けで今回も実施して良いか聞く予定だ。

・ 仕舞はストーリーより、動き重視か。

→A) そうだ。

・ 第1回WS後、京都観世会が主催した「面白能楽館」で、WSに参加していた同志社小の児童が2人、声をかけてくれた。もしかすると、他にも来ていたかもしれない。

→メンバー全員から感激の声があがった。“すごい！実績があった！”

16:40 観世流能楽師 a 退室

C、E退室

※ 以下、時系列に戻る

▼16:40～17:00 残りのメンバーで話し合い

G) 他に決めなければならないことはあるか。

A) 秋のWSのタイトルがまだ決まっていない。以前携帯MLで流し合おうという案が出たが、MLが錯綜するので却下となった。mixiのコミュニティにトピックをたててあるので、思いついたらそこに書き込む形で進めていきたい。

G) 事前学習プリントはいつ作り始めるのか。

A) 実質12月に入ってからになりそうだが、小学校が冬休みに入る前に提出したいので、12月7～8日までには能楽師にあらすじを提出して監修をお願いしたい。

G) ポスターはいつ張り出すのか。

A) 終業式よりは前に張り出したい。

T) ポスターは前回人気だった。児童たちはポスターでWSを心待ちにしていたようだ。高い効果が期待できる。

G) 絵日記は秋のWS後にも書いてもらうのか。

D) 実施したい。形態も前回と同じものにしたほうが児童たちの満足度・得られた効果などが比較しやすいだろう。

<次回までにすること>

- ・ mixi にWSのタイトルを投稿する。
- ・ 30日に小学校に提出する企画書の改訂作業。

以上

※議事録を仕上げる間に、観世流能楽師 a からメールがあり、観世流の演目が『鍾馗（しょうき）』に決定した。参考までに、以下にあらすじを掲載する。

鍾馗しょうき

唐の終南山の麓に住む男が都に赴く途上、昔進士の試験に落第して自殺した鍾馗の霊に声をかけられる。鍾馗は執心を捨て国土を守護する誓いを立てたという真の姿を現し、悪鬼退治の有様を目の当たりに見せ、治世を祝福する。 ※出典) (社)能楽協会 曲目データベース <http://www.nohgaku.or.jp/encyclopedia/program/>